

第5回「平和と繁栄の回廊」構想四者閣僚級協議
藪浦外務副大臣の共同記者発表における声明
(2016年9月7日 於：オアシス・ホテル (ジェリコ))

- 3年振りに実現した第5回四者協議閣僚級会合を終えました。会合では「平和と繁栄の回廊」構想について様々な意見が出されましたが、四者が一致して、同構想の進展の重要性に同意しました。
- 詳細は、配布した議長サマリーの通りですが、プレスの皆さん、またこの報道を目にする市民の皆さんに是非ご理解頂きたいことがあります。
- 前回会合は、和平交渉再開時期とも重なり、前向きな雰囲気の下、四者が集まりました。他方、今回は、和平交渉中断以降、政治的展望が見通せない難しい環境下での開催となりました。それでもパレスチナ、イスラエル、ヨルダンの代表者が、地域全体の平和と繁栄に向けた協力を確認し議長サマリーを採択しました。
- このことは、非常に意義あることです。四者が手を携えて協力を進めていくことの重要性は些かも失われていないのです。
- 我々四者のこの協力は、10年間続けてきました。如何なる政治的環境にあらうともです。これは、地域の発展と繁栄、そこに暮らす住民の安寧を願う四者共通の気持ちがあるからです。
- こうした積み重ねは、互いの信頼醸成と政治プロセスの進展にも必ずや貢献すると信じています。そして我が国は、地域の平和と繁栄に向け、引き続き尽力する考えです。

- 最後に、困難な状況の中でお集まり頂き会合の成功に多大な貢献をされた、パレスチナのシェイク大臣、イスラエルのハネグビ大臣、ヨルダンのハラブシェ次官に心からの御礼を申し上げて、私の発言といたします。

(了)